



立命館大学スポーツ健康科学会
2025 年度 総会 議案

■日時： 2025 年 7 月 2 日（水） 12：30～13：00

■会場： R103

■議案

1. 開会
2. 【第 1 号議案】役員の選出 1
3. 【第 2 号議案】2024 年度事業報告ならびに 2024 年度決算報告について 2
4. 【第 3 号議案】2025 年度事業計画—学会参加費等補助制度の改定(案) 4
2025 年度予算案について 6
5. スポーツ健康科学会『藍星賞』表彰式 7
6. 学会長挨拶
7. 閉会

以上

第1号議案

役員の選出について(案)

立命館大学スポーツ健康科学会会則に基づき、以下の役員を選出する。

	教員会員	院生会員	学生会員
会長	真田 樹義		
副会長	塩澤 成弘		
常任委員	村上 晴香 祐伯 敦史	山本 智丈 (M1)	上崎 天莉(3 回生)
幹事	海老 久美子		
監査委員	長野 明紀	星 凜武(M1)	

以上

第2号議案

2024 年度事業報告

- (1) 多様な学びへの補助に関して、学会発表やインターンシップなど学会の知の向上に関わる参加費補助、並びに GAT プログラム生の英語力向上を支援するため、Step-up コースの TOEFL 関連講座の受講料・受験料の補助を行いました。
 - ・GAT プログラム Step-up コース:TOEFL 関連講座 受講料補助・受験料補助(年 2 回)
補助申請学生数:1 名
 - ・国内外 インターンシップへの参加補助(年 2 回)
海外(GAT プログラム):ハワイ 11 名、ベトナム 2 名
- (2) 大学院生・学部生の学会等への参加費・交通費等補助(随時)
 - ・2024年度学会補助申請学生数:59名
うち海外学会参加者27名／国内学会41名・1グループ
 - ・主な参加学会
ACSM 2024 ANNUAL MEETING
IEEE EMBC 2024 CONFERENCE PROCEEDINGS
第78回 日本体力医学会大会／第37回 日本トレーニング科学大会 など
- (3) 学会誌「立命館スポーツ健康科学」第15巻を発刊しました。新任教員特集、サバティカルを行った教員の活動報告、退職される教授からのメッセージをはじめ、スポーツ健康科学研究科博士課程前期課程の修士論文の概要、博士課程後期課程の博士論文要旨および審査報告書等も掲載し、スポーツ健康科学部・研究科の年間の1年をまとめました。同誌は、学位授与式に卒業・修了生へ配布するとともにmanaba+Rでも公開しています。
- (4) 卒業論文優秀者21名に対してメダル、及び図書カードを贈呈しました。
- (5) 「スポーツ健康科学」における教育、研究活動を発展させ、この分野で活躍する人財育成の支援を目的として第7回藍星賞の候補者募集を行い、4名の受賞者を発表・表彰しました。
- (6) 2024年度は、スポーツ健康科学部の12期生が卒業を迎え、博士課程前期課程14期生、ならびに同後期課程11期生が修了しました。卒業・修了生の門出を祝い、学位授与式が開催された3月22日に、びわ湖大津プリンスホテルにて、学生委員会および院生委員会が企画した「卒業・修了記念パーティー」を学会主催で開催しました。

以上

第2号議案

2024年度決算報告(2024.4.1～2025.3.31)

1. 収入の部

予算			決算		
会費収入	教員会員	420,000	会費収入	教員会員	420,000
	大学院生会員	848,000		大学院生会員	8,316,000
	学部生会員	8,264,000		学部生会員	
前年度繰越金		22,979,732	前年度繰越金		22,979,732
卒業・修了記念P 学生自己負担		372,000	卒業・修了記念P 学生自己負担		806,500
雑収入	預金利息	400	雑収入	預金利息	9,238
合計		32,884,132	合計		32,531,470

2. 支出の部

予算			決算	
共通企画		2,180,000	共通企画	2,584,635
			講演会	0
			学会誌	590,315
			卒業・修了記念パーティー補助	1,914,811
			その他	79,509
大学院生企画		250,000	大学院生企画	1,022,280
			学会参加費補助	1,022,280
			その他	0
学生企画		1,030,000	学生企画	706,338
			学会参加費補助	403,888
			学習・交流企画(優秀卒論表彰)	302,450
			その他	0
その他		1,100,000	その他	1,327,529
			学会業務に関わる人件費	1,316,529
			通信費、予備費など	11,000
次年度繰越金		28,324,132	次年度繰越金	26,890,688
合計		32,884,132	合計	32,531,470

3. 定期預金

積立年度	金額	口数	保有金額
2014	2,075,000	1	17,575,000
2015	1,500,000	1	
2016	3,000,000	1	
2017	5,000,000	1	
2018	3,000,000	1	
2019	3,000,000	1	

立命館大学スポーツ健康科学会 決算監査報告書

記

2024 年度決算報告書について、帳簿、預金通帳、証憑等を照合した結果、適正に執行・管理されていることを認めます。

2025 年 6 月 3 日

監査委員 スポーツ健康科学部

教授

真田 樹義 

大学院スポーツ健康科学研究科

博士課程前期課程 2 回生

橋本 海斗 

以 上

第3号議案

2025 年度事業計画について(案)

- (1) これまでと同様に、スポーツ健康科学部の人材育成目的を達成するため、学生の教育・研究活動を支援します。特に、大学院生や学部生が国内外の学会に参加するための旅費等を支援し、学生の研究力の向上、研究成果の発信機会を支援します。本制度については補助額の増額を提案します。
あわせて、GATプログラム生の英語力向上のための TOEFL 関連講座の受講料・受験料補助や、海外インターンシップに参加する学生への参加費用の補助等を行い、国際的な場での活躍を目指す学生を支援します。
- (2) スポーツ健康科学部設立 15 周年と学園創立 125 周年を記念した企画を実施します。
- (3) 学会の Web サイトをリニューアルし、これまで以上に学会員の皆さんの研究活動を発信します。
- (4) 学会誌「立命館スポーツ健康科学」第 16 巻を発行します。
- (5) 卒業論文優秀者に対してメダル・及び図書カードの贈呈をします。
- (6) 第 8 回藍星賞表彰制度について、2025 年 2 月に募集し 4 件の応募がありました。選考の結果 4 名の受賞者が決定し 2025 年度本総会にて受賞者を発表、受賞記念として盾を贈呈します。また第 9 回藍星賞の募集を 2026 年 1 月に行います。
- (7) スポーツ健康科学部第 12 期生の卒業ならびに博士課程前期課程 15 期生、同後期課程 12 期生の修了に向けて「卒業・修了記念パーティー」を企画・実施します。

これからも引き続き、学会員の皆様(学生、大学院生、教員)の要望を踏まえた学会活動を展開していきたいと考えております。建設的なご意見やアイデアなどにつきましては、もよりの常任委員、もしくは事務局であるスポーツ健康科学部事務室までお寄せ下さい。

以上

立命館大学スポーツ健康科学会 2025 年度 学会参加費等補助金申請要項

立命館大学スポーツ健康科学会には、学部生・大学院生を対象とした学会参加費等に関する補助制度があります。この補助金は、学会への参加、学会での研究成果の発表を奨励し、援助することを目的としています。**2025 年度より、この補助金額のうち国内外の学会への参加費補助基準と旅費(交通費・宿泊費)の補助上限額を以下の通り改定し、あわせて申請方法も変更しました。**

【1】補助金の区分、内容、補助金額、支給回数、支給基準について

区分	名称	内容	補助金額	年間の 支給回数
01	学会参加費補助(国内)	国内の学会の参加費補助 (年会費・登録料・飲食費・ 懇親会費は補助対象外)	参加費 1/2 補助 上限 5,000 円	1
02	学会参加費補助(国外)	国外の学会の参加費補助 (年会費・登録料・飲食費・ 懇親会費は補助対象外)	参加費 1/2 補助 上限 10,000 円	1
03	学会発表者補助(国内)	学会発表者に対する補助 なお、“筆頭報告者”であること	交通費・宿泊費 1/2 補助 上限 20,000 円	1
04	学会発表者補助(国外)		交通費・宿泊費 1/2 補助 上限 50,000 円	1

各区分の上限額の範囲内で、執行済経費に対して補助します。**年間で各 1 件、計 4 件**まで申請可能です。(例えば国外の学会に参加した場合、「02」学会参加費補助(国外)1 件 + 「04」学会発表者補助(国外)1 件 = 計 2 件を同時に申請することが可能です。)

補助金の対象は、参加費については学内外で開催される学会、発表者補助は本学以外で開催される学会です。

なお、大学院生に関しては、本件の申請には「立命館大学大学院博士課程前期課程学生学会補助金」、「立命館大学大学院博士課程後期課程学生学会発表補助金」など、立命館大学の大学院生を対象とした他の助成制度、支援制度についても申請していることが前提となり、本件の申請フォームにも、その旨を記入する欄があります。(本学に該当する制度が無い場合は、「本学には該当する制度なし」と記入して下さい。)

また、学部生の学会発表(表1の 03、04)については、当該クラスの指導教員の判断に基づき、発表者個人でなく、クラスやクラス内のグループに対して支援を行うことも可とします。(上限額(総額)は個人に対する支援額を若干拡大し、**02 は総額 25,000 円、03 は総額 60,000 円**とします。)

【2】補助の対象となる期間・申請期間・支給時期について

補助対象期間	2025.4.1～2026.3.31 に開催される学会
申請期間	2025.4.1～2026.3.15 ※学会終了後 1 ヶ月以内に申請してください。 ただし、長期の海外での研究など、特段の事情があり、期限までの提出が困難な場合は、必ず事前に事務室まで相談してください。 <u>期限を過ぎた申請は受け付けません。</u>

	※2026.3.16～3.31 の期間の申請についても、必ず事前に事務室に相談してください。
支給時期	申請後 2 週間以内(夏期休暇等、事務室閉室期間にまたがる場合、また書類に不備があり、処理を進められない場合は、支給時期が遅れる場合があります。)

【3】申請方法について <すべて WEB での申請に変更します>

1. 学会参加費等補助金申請フォームより申請してください(過年度の申請は不可)。
2. 学会の様子を撮影した写真等があれば添付してください(学会報告としてHPに掲載させて頂くことがあります)。
3. 下記の区分に応じた資料を添付してください。

【国内】	
01 学会参加費	当該学会の学会名、開催地、会場名、開催時期が記載された案内・要項・プログラム等
	当該学会参加費の領収書、または参加証など金額が明示されたもの ※参加費以外のものと同時請求の場合は、内訳が明記されているものを添付すること
02 発表者	当該学会の学会名、開催地、会場名、開催時期が記載された案内・要項・プログラム等
	当該学会での発表が分かるもの ※発表者・発表テーマ・発表日が記載されたもの、アブストラクトは不要
	航空運賃の領収書とフライトスケジュールが確認出来るもの ※航空機利用の場合
	搭乗券の半券、または搭乗が証明出来るもの ※航空機利用の場合
	宿泊日の確認できる宿泊領収書(宛名は個人名でも可。) ※交通費のみで補助上限金額を明らかに上回るであろう場合は添付不要
【国外】	
01 学会参加費	当該学会の学会名、開催地、会場名、開催時期が記載された案内・要項・プログラム等
	当該学会参加費の領収書、または参加証など金額が明示されたもの 参加費以外のものと同時請求の場合は、内訳が明記されているものを添付すること
	クレジットカード利用明細書など日本円での支払額が分かるもの ※不要な情報は黒塗りOK
03 発表者	当該学会の学会名、開催地、会場名、開催時期が記載された案内・要項・プログラム等
	当該学会での発表が分かるもの ※発表者・発表テーマ・発表日が記載されたもの、アブストラクトは不要
	日本円での支払額が分かる航空運賃の領収書とフライトスケジュールが確認出来るもの
	搭乗券の半券、または搭乗が証明出来るもの 日本円での支払額が分かる宿泊日の確認できる宿泊領収書(宛名は個人名でも可。) ※交通費のみで補助上限金額を明らかに上回るであろう場合は添付不要

【4】申請にあたっての注意点

1. 必ず指導教員の承諾を得た上で申請してください。
2. 学会費(年額 8,000 円)を納めていない学部生・大学院生は申請できません。
3. 学部生のグループでの申請に関しては、別途事務室にご相談ください。

【5】交通費の算出基準について

1. 交通費は、最も経済的かつ合理的な経路、及び方法により、事務室で算定します。

2. 自宅最寄り駅(JRに限らない)を起点とし、国内においては会場最寄り駅(バス停)までの運賃、国外においては開催地最寄空港までの運賃で算定します。
(学部生のグループでの申請に関しては、南草津駅を起点とします。)
3. 航空運賃においては、現に支払った旅客運賃で算定しますので、領収書と明細、搭乗を証明出来るものを添付してください。
4. 往路または復路を私用にて関東地方などから出発／帰着の場合は、別用務とみなし、国内の交通費は片道分で算定します。
例) 往路：東京の実家から成田空港経由でアメリカの学会に参加
復路：アメリカから関西国際空港経由で南草津の自宅に帰着
→航空運賃(国外 往復)＋ 復路の国内交通費のみで算定します

第3号議案

2025年度予算(案)(2025.4.1～2026.3.31)

1. 収入の部

予算			事業計画、積算根拠
会費収入	教員会員	420,000	12,000円×35名=420,000円
	大学院生会員	856,000	8,000円×(M61名+D46名)=856,000円
	学部生会員	7,848,000	8,000円×981名=7,848,000円
卒業・修了パーティー学生自己負担		506,000	4回生 253名×2,000円
預金利息		9,238	
合計		9,639,238	

2. 支出の部

予算		事業計画、積算根拠
共通企画	3,550,000	学会誌発行(16巻) 600,000円 学会HP新サイト作成費 900,000円 2024年度卒業・修了記念パーティー 2,000,000円 藍星賞記念品 50,000円
大学院生企画	2,550,000	学会参加費補助 2,550,000円
学生企画	1,250,000	学会参加費補助 550,000円 インターンシップ 参加費補助 300,000円 GAT Step-Up Program 補助 100,000円 卒業論文優秀者の表彰 300,000円
スポーツ健康学部創立15周年記念事業	500,000	企画実施
125周年記念事業	100,000	企画実施
積立金	0	定期預金へ
その他	1,000,000	学会業務に関わる人件費
	10,000	通信費など
合計	8,960,000	
次年度繰越金	679,238	(収入)-(予算)

第4号議案

2024 年度スポーツ健康科学会『藍星賞』表彰について

藍星賞とは、人材育成、研究成果発信の好循環をより促進することを願い、本学会として「スポーツ健康科学」分野において、教育ならびに研究において顕著な業績・功績をあげた若手を中心とした教職員・学生を顕彰する表彰制度である。

2024 年度については、下記の4名の方々が各部門の受賞者に決定したため、表彰式を執り行う。

記

【2024 年度藍星賞受賞者】

	受賞者
1.研究部門	二連木 晋輔
2.教育部門	小西 可奈
3.国際部門	林 理紗
4.社会連携部門	木村 友香理

各受賞者の推薦理由は以下の通り。

1) 二連木 晋輔 氏

二連木 晋輔氏は、2015 年にスポーツ健康科学研究科博士課程後期課程を修了し、博士号を取得しました。その後、京都医療センターで臨床研究を経て、アメリカ・オハイオ州立大学（The Ohio State University Wexner Medical Center）にて、運動や脂肪組織を中心とした予防医学の基礎研究に取り組んでいます。今回、アメリカ心臓協会（American Heart Association）の Career Development Award を受賞されました。この助成金（総額\$231,000）は、研究主催者（PI）として必要なトレーニングを積むための支援であり、今後の活躍が期待されることから、藍星賞の研究部門の受賞者候補として推薦致します。

2) 小西 可奈 氏

小西可奈氏は、2017 年に立命館大学スポーツ健康科学研究科を修了し、博士（スポーツ健康科学）を取得しています。その後は、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所にてポスドクとして 2 年間勤務し、その後、2019 年より東洋大学 健康スポーツ科学部に助教として着任されています。この間、研究・教育を精力的に推進するとともに、新学部設立にも寄与されています。2024 年 4 月からは、新設された学部においてパーマネントのポストも獲得し、現在講師として研究・教育に尽力されています。教育に関しては、東洋大学 食環境科学部 食環境科学科に在籍中はスポーツ栄養学、食育論、運動生理学実習及び調理科学実習などスポーツと栄養に関する科目を担当し、現在の健康スポーツ科学部 栄養科学科では栄養指導論、栄養指導論実習、校外実習などを担当し、栄養士の養成に携わっています。また、大学院の科目（競技別栄養管理演習など）も担当し

ており、大学院生(博士前期課程)1名の指導にあたっています。立命館大学 スポーツ健康科学研究科 博士課程後期を修了後、着実に教育者・研究者としての道を進んでおられます。

以上の理由から、小西氏は、スポーツ健康科学会「藍星賞(教育部門)」にふさわしい人物であると確信しております。小西氏のたゆまぬ努力に深い敬意を表し、推薦いたします。

3) 林 理紗氏

林理紗氏(2019 年度本学卒業)は、2022 年度 3 次隊 JICA 海外協力隊として、ルワンダ陸上競技連盟に派遣され、陸上競技隊員としてルワンダの陸上競技選手の育成を担う傍ら、近隣の学校において体育の普及にも尽力しました。

林理紗氏は、JICA 海外協力隊として活動していた 2023 年 10 月、パリ大会までの 4 大会連続オリンピック出場を果たした飯塚翔太選手のルワンダ訪問を実現させ、世界のトップレベルの選手を目指すルワンダ若手陸上選手の指導を飯塚翔太選手と共に指導を行いました。林理紗氏と飯塚翔太選手が指導を行った、NIYONSABA Thabita 選手は 2 週間後のルワンダ全国競技大会でメダルを受賞しています。林理紗氏と飯塚翔太選手との指導の様子は、JICA をはじめとする様々な媒体で活動の様子が報告されています。また、2024 年 8 月 18～24 日にかけてウガンダで開催された東アフリカセカンダリースクールスポーツ大会(Federation of East Africa Secondary Schools Sports Associations Games 2024)では、ルワンダ代表として 12 名の選手を引率しています。2023 年度予選落ちを経験した活動先の NIYONSABA Thabita 選手が決勝に進出し、200m で 5 位入賞を果たす指導の成果も挙げています。選手の指導のみならず、林理紗氏の「ランニングシューズを持っていない子も多く、サンダルで練習している子もいる」という SNS の投稿を契機に、本学陸上競技部がシューズやウェアを収集し、林理紗氏が活動するジーエスセントアロイスルワマガナアスレティッククラブ(GS St. Aloys Rwamagana Athletics Club)に、シューズやウェアが寄贈されました。寄贈後、林理紗氏が指導するクラブの部員と本学陸上競技部がオンラインで交流する機会も設けられました。本活動は、社会貢献として本学 SPORTS & CULTURE の SPORT REPORTS & TOPICS にも紹介されています。

また、2024 年 8 月 18 日・19 日に開催された(一社)日本運動・スポーツ科学学会 国際健康・スポーツ分科会第 22 回大会において「ルワンダにおける陸上競技選手育成の成果と課題および JICA 海外協力隊の役割」と単独でオーラル発表を行っています。派遣終了後は、本学の大学院に入学し、「ルワンダにおける体育教員の資質向上に向けた基礎的研究: セカンダリースクールにおける体育授業実施の促進要因と阻害要因」をテーマとした研究を行う予定です。

「スポーツ健康科学」分野において、国際的な選手育成や社会貢献と研究発表といった顕著な業績・功績をあげており、本学大学院での新たな挑戦とその実現に向けた期待を込めて、林理紗氏を 2024 年度スポーツ健康科学会『藍星賞』3. 国際部門の適任者として推薦します。

4) 木村 友香理 氏

木村友香理氏は、真田ゼミ 1 期生で、卒業後 OIC 人間科学研究科に入学し、修了後は特定非営利活動法人コミュニティ・スペース sacula を立ち上げられました。本法人は、子ども・若者及びその家族に対して、居場所と相談サポートに関する事業を通じて様々な経験を提供し、子ども・若者の心身の成長と社会とのつながりに寄与することを目的としています。子ども食堂を運営するなど京都市を中心に子どもや若者が安心して過ごせる居場所づくりに大きく貢献しており、今回、スポーツ健康科学会「藍星賞」に該当すると思い、推薦させていただきます。